

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 0175700269, ケアネット, グループホーム みやこ緑が丘館, etc.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0175700269-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット, 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4, etc.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方が今出来る力、今持っている力を発揮しながら生活できるよう支援を行っている。調理参加や、洗濯物、掃除や食器洗い等「利用者の方の出来る事」を大切に活躍して頂けるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、市内中心部から車で約10分、南西の丘陵地帯にあり、周囲は自然が色濃く残り、また宅地としても開発途上の閑静な住宅街に立地している。建物は他の住宅と変わらない2階建の一般住宅模様で、表札がなければわからないほど住宅地に溶け込んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆっくり、楽しく、一緒にという理念を共有しながら、新人への指導の際や職員間での日頃のケアの話し合いの中で理念を基に話し合いを行う事で利用者の方が家族の様に安心して暮らしていけるよう努めている。	介護理念である「認知症高齢者は病気であるが、病人ではない」「ゆっくり、楽しく、一緒に」を事業所内に掲示し、利用者や家族、職員と共有している。また理念から生じた年間目標も掲げ、サービスに繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の花壇整備を行ったり、スタッフが挨拶を行う等の何気ない事を続ける事で日常的に交流出来るよう努めている。	30年の12月に近所から新築移転してきたが、前住所地では15年以上の実績があり、同じ地域のため行事や祭り等々を介して、引き続いて交流が維持されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へGHの役割や、希望があれば見学や体験などが出来るような企画をしていたが、コロナの影響で実施は出来なかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスにより書類送付による報告が続いているが、ホームでの事故報告やヒヤリハットの検討等を外に伝える事を通して改善点やサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は行政や包括、家族の出席を得ながら2ヶ月毎に開催している。議案は行事報告のみならず事故やヒヤリハットも報告し、また議事録は利用者宅に郵送しており、認知症の理解とサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点やお聞きしたい事等、なにかあれば直接相談をその都度行うことで密に連携を行っている。	行政とは、制度の改正等々の説明会や各種会議で情報交換に努めており、疑問点や不明な個所には電話や窓口で指導を受け、信頼感のある関係性を維持している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修を行う事で日常的にグレーゾーンではないか不適切なケアではないか等意識できるよう取り組んでいる。	身体拘束防止委員会を指針に沿って3ヶ月に一度開催している。議事内容は直近の会議や申し送りで職員に周知し、身体拘束も抑制もない介護に取り組んでいる。また拘束防止マニュアルを常備し、研修を定期的に行い、会議や申し送りで具体事例を職員間で検証している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理職や正職員を含めた委員会でグレーゾーンと思われることや事例などを検討しながら、実際の現場での不適切なケアなどの発生の防止に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議内のホーム内研修等を通して学ぶ機会を持ち、各職員が知識を深めることが出来るように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談、契約時の説明や確認を細かくご本人や御家族と話し合いを行う事で利用者の方が御家族の不安点や疑問点を迅速に解消できるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方や御家族が意見や要望を伝えやすいように意見箱や、御家族への手紙、利用者本人からの直接の訴えを記録し各職員の共有と把握を行いながら意見の反映に取り組んでいる。	利用者の生活の様子を克明に伝える事を重要視し、お便りや報告書等々で多面的に伝えている。来訪時や電話等で、苦情や希望を聴取し、できるだけ反映できる様前向きに取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談の実施や日々の職員の様子をみて職員の考える意見や提案の把握を行い反映できるように努めている	毎月の会議には本部の統括Mが必ず出席し、意見や提案を受けており、また年に一度、自己評価について職員各自が管理者と、その後はオーナーとの面談が用意され、職員が自由に話す機会が設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部委託業者により各職員のストレスマネジメントに努め、必要時に面談やコミュニケーションに繋げる事で職員の想いや心の声等を汲み取り、職務への向上や働きやすい環境づくりを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウィルスにより外部での研修を受ける機会が限られているが、職員へ研修を受ける機会を設ける際は勤務調整と研修費、交通費の支給を行う事で職員のケアの向上に繋がるよう取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力連携している他事業所と情報の共有や連携、相談など横のつながりによる相互の協力を行う事でお互いの事業所のサービス向上を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前の面談や情報収集と利用者本人の意思、要望を聴く事で求められるニーズの把握を行うと共に、入居後も意思と要望の後追いを職員間でのホーム日誌や情報の共有を行う事で本人の安心感や満足感に繋がるよう取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前の事前の話し合いなどやり取りを行う事で、御家族の視点での要望や不安点の把握に努めると共にご本人も交えて二者が納得できる方法を提示し御家族との関係構築を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始時の利用者の方と御家族を交えた話し合いから今現在の本人にとって必要な支援や暮らしの把握に努め、他のサービスはもとよりホームでの生活の基盤となる事も正職員同士での情報共有から各職員へ共有することで必要とされている物事を満たすことに努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方がどう生活されたいか日頃の様子やコミュニケーションから把握に努め、家事活動に参加してもらう中で「自分もホームの一員として活躍している」「職員を助けている」「一緒に生活している」と感じてもらえるよう関係づくりや対応を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族には出来るだけ受診等の対応をお願いし、ご本人の状況の把握や交流を持ってもらったりケアプランの中にも御家族が担えるような役割(電話対応や外出支援等)を持ってもらう事、また定期的なホームへの訪問や手紙でのやり取りの中で要望や意見を汲み取りケアに反映させられるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の築いた関係性を大切に、電話でのやり取りやホームへの来訪、またはご本人による馴染みの場所やお店へ行く事等、これまでの関係性を大切に出来るよう支援行っている。	顔馴染みの人の訪問は、ゆっくり過ごせるよう配慮し、墓参りや初詣といった場には家族と協力しあい支援しており、昔馴染みの関係性が閉ざされない、途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が回り合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方同士の日頃のコミュニケーションからやり取りや関係性を汲み取り、談笑に巻き込む事や家事参加、レクレーション等の場などお互いに関わりあい、支え合う事や関係性を構築していけるよう取り組み行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も必要書類の相談、入院後の行き先など情報提供をその都度真摯に対応行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活や会話の中でご本人の気持ちを聞き取り日々のケアに活かしている。困難な方に対しては会議の中で、ご本人の立場に立った考え方や本人の気持ちを汲み取りながら意見を出し合い思いや意向の把握に努めている。	本人の毎日の生活を支えながら、好き嫌いや願いと希望、思いの深さなどを職員で共有化し、本人の意向に沿った生活になるように努めている。意思疎通が困難な場合でも、表情や仕草、過去の生活歴から本人本位の生活に近づけるように努めている。	本人が最後の時間をどこで過ごしたいのか等の最終段階に関して、具体的な思いを定期的に聞き取り・記録し、より本人本位の介護となるように期待したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の方本人の気持ちと、御家族の方より情報を頂く事や協力頂き、ご本人の住みやすい環境や生活リズムを守りながらどの部分にフォローが必要か等の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が一日の過ごし方から、意欲に繋がる事や家事作業等を利用者の方が主体になりながら一緒に携わるといふ事を行い今ある力を活かす事、引き出す事に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からは中々要望をはっきりと口にされることは少ないので面会時の御家族にお話を聞いたり日常生活状況や本人とお話の中から本人のなりたいたい姿ややりたいことをアセスメントし、それを達成するための課題を分析し、ケア会議の中で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	担当がモニタリングを含め課題等をカンファレンスで確認し介護計画を作成している。介護計画の進捗状況が日々把握できる様、介護目標を日誌に記載するなど検討を重ねている。また病変等が生じた場合は、現状に即して検討し、実情にあった介護計画になるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録用紙の他にも日中や夜間の気付きをホーム日誌に記入して情報の共有や職員会議などで話し合う事で介護計画に活かせるようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに合わせた生活を営んでいただけるよう取り組み行っている。コロナの影響で制限されてしまったが、デイケアの利用や訪問理容等利用者の方の希望に沿えるよう努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームでの生活が主であるが、市の文化祭を見に行く事や、コロナの影響で関わる事が制限されてしまったが、他事業所とつながりのあるパン屋に来て頂いての販売など、外部の方を招くという形での支援にも努めている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診希望時には、一度Drに相談を行い受診をした方が良いか、少し様子を見ても良いかなど指示をもらい、ご本人に伝えている。	かかりつけ医は本人・家族の希望を優先し、通院時は職員が同行している。重篤な場合は往診や訪問看護の必要性もあり、かかりつけ医と相談しながら、安心できる医療体制で臨んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化や気付き等があった場合や、月二回の訪問看護時等での相談を行い指示や助言があった場合には、得た情報をホーム日誌や記録に残すことで、各職員での情報の共有と利用者への適切な受診や看護などの支援に繋がるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院当初より利用者の方の情報提供を行い病院側と密に情報共有することで本人が安心して入院生活を送る事が出来るように支援している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化があった際などには、Dr、御家族とインフォームドコンセントを交わし、状態をご理解頂き、なるべく多くの時間を一緒に過ごせるよう協力を頂いている。かかりつけ医や訪看の方にも連絡のタイミング等詳しく聞くようにしている。	契約時に看取りの指針を書面で説明し同意を得ている。職員も看取りの研修を定期的実施し、状況に合わせた対応が出来る様に努め、状態の判断も複数の職員で行う等々、本人の意向に沿えるように取り組んでいる。また近年では2~3年間で4件の看取りを実施。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行えてはいないが、夜間などに対応でパニックになったり、不安にならないよう、連絡先や連絡のタイミングを紙に落とし、何かあれば管理者やDrに連絡が出来るようにしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中想定、夜間想定避難訓練を行い、避難経路や避難場所の共有を行っている。何かあれば民生委員の方もご協力を頂けるとの事。	災害訓練は年に2回、夜間想定も含め実施している。冬季を考慮した備蓄品等も整備し、不意の災害に備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の生活歴を出来るだけ引き出し、その人らしい生活が出来るよう配慮をしている。排泄の誘導時は手招きをしたり、ちょっと用事があると伝え、周りに排泄だと気づかれないよう配慮をしている。	接遇は介護の要であり、プライバシーの確保や人格の尊重を旨として介護に臨み、研修や会議、個別な介護でも礼儀を忘れないようにと話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ個人の希望が引き出せるよう、話しやすい環境の元お聞きしたり、なかなか自分では言えない方や、遠慮してしまう方については生活歴からや御家族にお聞きし希望や自己決定が出来るよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の希望に柔軟に対応できるよう努めている。すぐに実現出来ない際には、いつ頃対応できるかお話をしたり、メモに残しておくようにしている。各スタッフが実践できるよう情報を共有している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際や、日常の生活の中で衣類の選択をして頂いたり、化粧道具なども本人と話し合ったり、御家族にお聞きしその人らしいおしゃれが出来るよう支援をしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に一緒に家事に参加して頂き、各利用者様が出来る事を無理なく行っている。誕生日の際には希望の物をお聞きし、皆で作ったり、宅配をしてもらっている。行事や季節あった料理を提供できるよう努めている。皆で楽しく作れるようにしている。	献立は前日に希望や食材を見ながら立て、その人の機能に合わせて食事の支援をしている。外食や宅配も利用したり、また下膳や食器拭き等の手伝いもお願いするなど、楽しい食卓になるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の嫌いなものがあれば代替品や違う魚を提供したりしている。その方が美味しく、食事の時間が苦痛にやらないよう配慮を行い、出来るだけバランスよく食事や水分が摂れるよう工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合わせた口腔ケア物品を話し合い購入している。ご自分でできるよう声掛けや一部介助にて口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のタイミングを会議などで共有を行い、失敗が無い様スタッフ同士声掛けを行って誘導を行ったり、興奮状態などサインを見逃さない様にし不快な時間が少なくなるように努めている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄サインの共有によるトイレ誘導、時間による誘導等、その利用者一人ひとりに合わせた方法で、排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の提供の際にオリゴ糖の使用をおこなっている。なるべく水分を無理なく摂れるよう、好きなもの(甘酒やゼリー等)で水分を摂れるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けの際に断られた際には時間を置いたり、対応するスタッフを交代したりし、気分がのらない際には翌日にまた声掛けを行っている。入りやすい様、音楽を流したり、一緒に唄ったりし気分を高めるような支援もしている。	毎日お湯を入れて準備し、全員が週に2回以上入浴できる事を基本として、入浴支援をおこなっている。拒否者には無理強いする事なく対応し、時間や環境、介護員等を変えながら、楽しいお風呂になるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後、眠そうな方がいれば居室に誘導をし体が休まるよう声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てのスタッフが理解をする事は難しいが、正職員より会議の際に伝えたり、理解してもらえよう今後も努めていく。又、薬の内容がすぐ見られる様、ファイルを置き、その都度確認するよう声掛けしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナにより外出の機会は限られたがスタッフの子供達と展示物の制作や宿題を教えたりと孫を見守る祖母の様な目線で居られる事。天候を見てドライブ好きな方はドライブに、散歩がお好きな方は散歩にと個々に合わせて気分転換したり、一人一人の役割や楽しみ等を大切に支援行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により外出の機会は限られてしまっているが、人と接触しないドライブであったり平日のあまり人気が無い時間を狙い野菜の直売所や公園などに外出することで出来るだけ利用者の方が楽しめる日常的な外出が出来るよう努めている。	近くには大きな公園があり、バラ園も至近距離で、普段より散歩やソフトクリーム目当てで出かけている。また近所の散策も日常的で、お庭を拝見したり、挨拶を交わしたりと閉じこもらない介護を目指している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の方の金銭などはご本人や御家族との話し合いの元、金庫にて保管させて頂き、いつでも使用できるようにしている。コロナによりスタッフの代行が多いが希望や要望時は買い物に行く事や、希望された場合直接お金を持って管理して頂く事も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも電話で御家族の方とやり取りされたり、手紙でのやり取りを促す事や、御家族より電話あった場合ご本人に取り次ぎお話しされたりなど支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方とスタッフで季節ごとの展示物や植物などを置くことで季節感を感じて頂く事や、トイレや食席などは分かりやすいように表記した紙やシールなどで混乱せずに過ごしていただいている。また共有スペースでも過ごしやすい温度やゆったりとした、明るさ等の配慮させて頂き居心地の良い空間づくりに努めている。	建物内は清潔で機能性に富んだ造りで、居間兼食堂は広く開放的で、温度や湿度も適性に管理されている。季節の装飾品も飾られ落ち着いた過ごしやすい工夫が凝らされている。また猫が飼われており、利用者との生活に溶け込み、利用者の日々の楽しみとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方は自室で休まれたり、仲の良い方と一緒に居室で過ごす事や一緒にテレビを観たりなどそれぞれの時間や自分の時間を大切にしながらホームで生活して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には出来るだけ本人の使い慣れた物や馴染みの家具を持ってきていただく事や、自分で制作した作品や御家族の写真を飾る事で自分の部屋という安心感や居心地の良さに配慮できるよう努めている。	各自の居室は馴染みの家財が配置され、なかには仏壇も持ち込まれており、静かで過ごしやすい居心地のいい自分の部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事のメニューを見やすくする事で、特定の夜勤者の朝食作りの際は利用者の方自身で考えて調理行う事や、浴室やトイレ等の共有スペースでの手すり等の設備で身体の動きにも出来るだけ安全に配慮行うしながら利用者の自立と自力での生活を送る事に活かせるよう取り組んでいる。		